

ある若き求道者との対話（その3）

ニューヨークで最近知り合いました、あるお方との対話の続きを以下に記します。

Aさん：私はよく、自分が他人よりも優秀な人間だと思いたいクセがあります。直感的には、これはよくない思考で、変えたほうがいいというのはわかるのですが、どうしてかはいまいち理由が自分で説明つかないのです。例えば、何かをグループでした時に、自分が一番になりたい、人より優れている事を証明したいという感情です。多分、みんなそれぞれ持つてはいると思うんですが、これもまたエゴですよ。でも、確かにその感情に縛られて、先に行けない感じはあります。

あと、もう一つ思うのが、西遊記で孫悟空がお釈迦様を挑発して、自分はお釈迦様よりすごいと言って、筋斗雲で天まで登って行って、天に着いたと思って柱に線を書いて戻って来て、お釈迦様に天まで行って来たと言ったら、実はお釈迦様の指までしか行けてなくて、孫悟空が驕っていた自分を恥じて心を入れ替えるというお話がありますが、これは一体何が教訓なんでしょうか？

天とか神とか、超自然的なことに挑戦することはだめなことなんでしょうか？でも人類は長い歴史を通して、天に挑戦してるように感じますが・・・。医療や科学などなど・・・・。私自身も孫悟空的なモチベーションで逆にやってきていると思います。これは物語のお話しですから、仏教の話じゃないんだらうけれど、いつもこのエピソードの意味を考えるのです。

私：わたしもAさんと同じように、自分が優れた人間になりたい、一番になりたいという思いを抱いてきました。多くの方もこのように自惚れというか、慢心を抱いているでしょう。それはもう染み付いたエゴですね。どうしようもないのです。どうしようもないのですが、そういうエゴの心が確かにある自分だと、はっきり気づくことは大変良いことだと思います。自分のありのままに気がつくことはとても大事なことです。そして、成りたい自分に成る様に努力して行ったらいいのだと思います。

この孫悟空のお話は私も好きなお話で、実は仏教のお話なんです。孫悟空が豪いものに成ろうと一生懸命気張ることは、我々普通の人間が一生懸命に科学や医療、その他の分野で、理想の世界、幸福を追求しようとやっているのと同じようなことですね。これは、孫悟空を初め、普通人間でしたらみんな企てて、実際行っていく道だと思います。一言で言えば、自分の力でもって、自分も周りの世界も理想の世界を築いていこうという、我々人間が常識的によく踏んでいく道でありますね。

しかし、どれほどそういうふうにより自己、自力心を以って努力して行っても、その根底に自我が有る限りは決して理想の世界はできないということを、この西遊記のお話の中では、いくら孫悟空ががんばってもお釈迦様の大きな手の中、つまり真実に目覚められた仏の広大な世界の中で、ぐるぐると堂々巡りをしていただけだったというお話で表されているのだと思います。

つまり、ここでお釈迦さまが黙って示されている教えは、人間はもちろん自分の理想、社会の理想を求めて、医療や科学や経済・政治・教育等々あらゆる分野におきまして、一生懸命努力して行くべきでありますけれども、その方向だけでいくらがんばっても、「自分が、自分が」という自我を根底にしている人間活動からは、決して本当の落ち着き、安心というものは出てこないのだ、ということであると思います。

そしたら、どこに真の落ち着き、安心が有るのか・・・・・・・・。

禅の言葉に「脚下（きゃっか）を照顧（しょうこ）せよ」というのがあります。つまり自分の脚元をよく見よと。真理を外にある理想に求めずに、自己自身の内に求めよという意です。そもそも今こうして自分が存在している……。この事実、これはどえらいことである、全く不可思議なことであると真に感嘆することあります。

孫悟空は一生懸命に飛び回ってがんばったあげくに、どこにいても何をしておろうとも、こうして今存在していること自身がもう何ともいえない不思議な有り難いことであった……。と深く目覚めたのではなからうか。真の幸福感は、自力心・自我心の追求の果てに、いまここにすでに仏さまのお慈悲のど真ん中にいつも包まれていたんだと体験、感ぜられるようになることだと、この西遊記の物語は語っているのではなからうかと私は頂いております。

私が、なにをしようとも、どこにしようとも、今ここにおいてすでに仏のお慈悲にいつも包まれていると感じれるようになったことが私の仕合わせであり、これがこの孫悟空の物語の、いつもいつも私は大きな仏さまのお手の中にあるんだーという実感です。これは理屈を超えた不可思議なる心の体験です。

Aさん：そうですか。そういうお慈悲を感じることはなかなか難しいです。苦しいことの方が多いですね。自力でやってるわけじゃないんですけど、苦しいことの方が多く巡ってくると感じる人が多いです。本当に幸福になれることはあるのでしょうか？

私：お釈迦様は「人生は苦なり」とおっしゃいました。そうなんです。実際生きていくと、自分の思い通りにならないことが多く、つまり苦しみを感ずることが多く出てまいります。苦しみは死ぬまで次から次へとやってきます。

だからこそ、お釈迦様を初め無数の方々が、その苦しみに縛られない、悩まされない本当に幸福な心の持ち主、いいかえれば心の富者に何とか成りたいという願を立てられて道を求め歩んでいかれたのです。私もそのうちの一人です。その結果、無数の方々がそういう心の持ち主に成って、この苦しい人生行路を渡り得る者になっていかれました。

そういう真なる幸福心の持ち主、心力の所有者になれることは、無数のお方が証明されています。その幸福感といいますのは、苦しみは人生を生きていく以上、押し寄せる波のように次から次へと死ぬまで出てきますけれども、その苦しみの波をことごとく転じていける心の力が育ってくるということだ私は思います。

仏の願は「どんなものでもみんな、心の富者、真の心の幸福者になれるぞ」ということでありますから、すべての人間に開かれている道です。ですからAさんも、そういう心の富者に何としてでもなりたいという願を立てて、道を聞きつつ実際の人生行路を真摯に歩んでいかれることが尊い道だと思います。

この世は仏の無限のお慈悲に満ち満ちているのですが、そういうことに目覚めるといいますか、気づくように成れたらいいのです。時間はかかるかもしれませんが、段々とまたふっと、そういう心境が開けて参るものであると信じております。

Aさん：人生のゴールは何かと思う時があります。一体何のために全部して
るのかと、ふと考えることがあります。でも何かの本で読んで、お釈迦様は人
生にゴールなんてないと言ってたのを見ました。ゴールがないのは、ゴールが
あるよりもっと難しいですね。辛いことがあっても、ゴールを目指してたら乗
り越えられますが、ゴールがないとなるとなかなか難しいです。

私：そういう問いかけ、疑問がとても大事であると思います。どうかどうか、
その問いかけを大事になさって歩んでください。

私はある好きなお話があります。それは、映画の寅さんのワンシーンです。
あるとき、寅さんの甥っ子の満男（20歳前後）が寅さんに尋ねるのです。

「おじさん、人って何のために生きていくのかなー。」

「満男、おまえ難しいこと聞くじゃないか。そらー、お前人間というのはなー、
そりゃーなんだ、生きててこういうこと有るだろ。生きててよかったなーと思
うこと有るだろ。人間そのために生きてるのと違うかい。そのうちにお前にも
分かる時が来るよ。・・・」

人それぞれ、何かゴール・目標を定めて生きていくことも大事なことです
が、そのゴール・目標が達成できるできないにかかわらず、その人生道中の過程そ
のものにおきまして、

「こうして自分の存在が今あるんだー、こうして世界があるんだー。いずれに
しろ、今生きている！」という、人と比較してではない、競争に勝ってではな
い、もっと根本的な存在そのものかけがえのない有り難さ、不思議さにふと
気づき、感じられるようになれば、私はそれは本当に無上の仕合せなことでは
ないかと思います。

仏の救いの世界とは、「ああ、不思議だ！いまこうして一切がある！」と、
目覚め感動することではなかろうか。それは、比較・相対・分別・競争といっ
たものを離れた、全部包み込んでいる一如平等の広大なこころの世界でありま
す。わたしは、この世界にこころの目が開かされ、こころの落ち着きを得るこ
とによりまして、動乱・不安・悲しみ・痛みが止まないこの娑婆の厳しい現実
世界に身を置いて、そのあらゆる人生の苦悩の荒波に対処していく智慧と力を
賜りつつ、生きているような次第であります。また談じ合いましょう。

南無阿弥陀仏 合掌

(ご感想・ご質問を、mikinakura87@gmail.com までどうぞ。)